

目的 第1報で取り上げた教種の新水流洗濯機の洗濯試験を通して、メーカー側の示した各機種種の性能、使用方法等に対し、それぞれの操作上の特徴・問題点等を「使いやすさ」を中心に比較検討した。

方法 各洗濯機について使用方法の表示の見やすさ、スイッチなどの使いやすさ、洗濯容量指示の適切さ(洗濯物の動きと洗浄効果、洗浄の際の布のからみつき、よじれなど)、排水・脱水性能と操作のしやすさ、二槽式における洗濯槽と脱水槽の大きさとの関係、付属品(漂白剤・柔軟剤の抽入口など)の有効性、洗濯全行程の所要時間との兼ね合い、等を第1報の洗濯実験を通して、実験者5名がモニターとなり評価考察した。

結果 一般にマイコン表示による行程セレクト操作は、慣れれば従来のものより容易であるが、機種によっては操作スイッチの位置、配置、見やすさに抵抗を感じるものもある。説明書に強調されているような新水流の特長は、低浴比では発揮されず、いずれも少なくとも1:20程度は必要である。これは第1報の洗浄効率にも反映されている。とくに二槽式では、低浴比で洗濯物の多い場合、洗濯槽に比べて脱水槽の容量が小さいため、押し込み操作や取り出し操作などすべてにおいて重労働となる。二槽式は布地やよじれの程度などによる行程のきめ細かな選択や洗濯液を繰り返し使用できるなどの利点があるが、大型化のメリットは、使い易さの点で全自動が優位である。